

3年目の八尾P、いよいよ大詰め

まちの将来像を思い描く

上新町第2回フォーラム

text_shiozawa

いよいよ本年度の八尾プロジェクトも大詰め。2月15日、前回よりも多くの方が集まり、上新町の方々のまちづくりに対する意気込みが感じられました。今回のフォーラムの目的は、上新町の今後の方向性を探っていくこと。特に、具体的に誰が、何から始めればいいのかを、住民の方が主体的に考えることによって、まちづくりの第一歩を踏み出す機会にしたいと考えました。どんなまちになっ

てほしいのか、どんなまちにしたいのか、そしてそれは誰が中心となって推進していけばいいのか。あえて地元組織やそれぞれの世代ごとに分かれて話し合ってもらい、最後にお互いの考えていることを発表していただきました。前回のフォーラムから、頂いた意見をもとに発展&追加した私たちの提案には賛成の意見を数多く頂き、ぜひすぐにでも、というものから、長い目でみて段々と実現していきたいというものなど、上

新町のまちづくりに役立てたのではないかと思います。世代や立場の違いによって、それぞれ求めるものなど少しずつ意見は違うものの、八尾の文化を活かし、まちをもっとよくしていきたいという意識は皆一緒。短い時間の中では話しも尽きず、議論も白熱、それぞれが積極的に自分のまちに対する想いを言葉にして、意見を交わし、将来のまちの姿が少しでも共有できたのではないのでしょうか。



まちの若者や、商店街の幹部の方、女性部などそれぞれ発表



上/最後には西村教授交え議論を深める。下/フォーラムの日は雪が降り、八尾の雪化粧が見られました。

次の日から。

パネル展示

岡村 (D3), ポンサン (M1) 二人で挑んだ展示会には、住民の方々がフォーラムで言えていなかった意見・要望等を教えるに訪れてくださった他に、他の町住民も何人か見えた。またその日は土曜日だったために、八尾にたくさん訪れている観光客の中からでも興味を示してくださった方もいらっしまった。

ボンサン

西町

隣の西町では、まちづくり活動の一環として公民館で「えびす亭」という飲食店を開店している。連日大盛況の様子。地元の方に歓迎されて心も体も温まる。また、冬のイベントでは石垣ライトアップ事業「夢あかり」を視察。地元住民の情熱と長年積み重ねたプロジェクトの成果の一部を実感。

帰り道

帰路にはJR高山線であし足を延ばし、飛騨古川と高山へ一人旅。今日では、海外からも多くの観光客が訪れている両町。日本全国様々な場所を訪れているが、失われつつある「日本の風景」が多数残っていることを実感して、人気が高い理由がわかったような気がした。



展示でヒアリング えびす亭のおでんで温まる 夢あかりで灯るまち 高山のまちなみ

「危機にさらされている世界遺産をどう守るか」

text_shiozawa

3月3日のNHK教育テレビで、西村教授が司会を務めた国際シンポジウム(※)の様子が放送された。(午後11:30~翌日午前0:40) パネリストは平山郁夫(ユネスコ親善大使)、前田耕作(和光大学名誉教授)、クワン・クン・ニアイ(カンボジア考古局長)、はな(女優)など。例えばアフガニスタンのバミヤン遺跡。内戦で大仏が爆破され、一昨年危機遺産リストに急遽登録された。しかし、そこでは遺跡の保護と住民の生活の再建をどう両立するのか模索が続いている。あるいはフィリピン・ルソン島の山岳地帯には、「天国への階段」と呼ばれる棚田が織りなす美しい風景が、近年の産業構造の転換により荒廃が進む。「遺産の保存」とそこでの人々の生活との関係性はやはり複雑に絡み合っ簡単には解決しないのかもしれない。先日ふらっと立ち寄った西武百貨店では「世界遺産からのSOS—アジア危機遺産からのメッセージ」という同じような写真展が催されていて、午前中から人でごったがえしていた。人々の関心の高さが伺われた。



バミヤン遺跡

(※) 2006年10月
国際シンポジウム
「危機にさらされている世界遺産を
どう守るか」
東京・上野公園の東京国立博物館

M2・7人が語る「これから」

アンケート発送翌日に、真っ先に返信のあった、柴田M2。喜多方、京浜での仕事の速さには定評があり、今回も水際立った仕事師ふりを発揮した。…と思いきや…。

走り書きで申し訳ないですが、これでなんとかしてください。明日から、日本にいないので手直しもできません（発行日までに戻ることも無いです）。最後までですんません。おたっしやで。

(柴田)

文中「これ」の指すモノがどうにも不明で編集部も途方に暮れた。ともあれ、明日から海外へ飛び立つ、ということは伝わったので、無事を祈るのみだった。続いては、「回答例」をふまえて、お願いした締め切りにぎりりと合わせてきた、貫禄の「チーフ」こと鈴木M2。

<短中期的に：今年度残りの予定など>

先ず、友人と旅行に行ってきます！また、大学院の2年間、まちあるき以外に、殆どスポーツらしきものに触れていない（正確には、まちあるきはスポーツではないですが）ので、この機会に、スポーツを再開しようと思っています。あとは、修士論文をもう一度ブラッシュアップさせつつ、プロジェクト等の活動も少しずつ再開させるつもりです。

<中長期的に：新年度からの新生活に向けて>

新年度以降も、やはり数日後の締め切りに追われることも多々あるでしょうが（笑）、もっと長期的に物事を見据えつつ、広い視野を持って、地道かつ着実に、研究等に邁進しようと思っています。新年度も、研究室の皆さんにはお世話になりますが、どうぞよろしく願ひ致します。 ※追伸 2階の院生室は、9階・10階に負けず劣らず、研究等をするには非常に良い環境です！新年度の席替えでは、ぜひ2階へ！

「学年きっての自由人」と呼び声高い江口M2は、予想通りじっとしていない。卒業旅行の幹事も務め、波に乗っている。

今年度、残りは3月頭にメキシコとニューヨークにいきます。ずっと見たかった、ルイス・バラガンとルイス・カーンの建築を見る予定です。両方ともルイスです。3月末には、波瀾万丈が予想される、M2大卒業旅行を控えております。また、4月頭にはマラッカの街とオランウータンを見に、マレーシアに行ってきます。新年度からは、修士の研究を発展させて、寺社と都市の関係について大きな視点からの切り口を探していきたいと思っています。

江口M2の相棒・楊M2は、大きな動きはないながらも、「3年後」にキラリと野心を燃やす。

先2月、めでたく修士号を取得したM2の7人。就職する人、進学する人、進路はさまざまだが、論文の重圧から解放された院生たちは、いかなる日々を過ごしているのだろうかー。マガジン編集部は、全員にアンケート調査を実施した。返答のあった順に、回答全文を掲載する。

text_bannai

二年間は一瞬で終わりました。修士生活はいよいよ残り1ヶ月未満です。この一ヶ月は論文の修正と新年度の手続きをする予定です。後は、楽しい卒業旅行を期待しています〜 この二年間の中で、いろんな人に出会って、いろんな人に助けてもらった為、順調な留学生活が出来ました。来年度も引き続き、研究室に在籍する予定です。どうぞ、よろしく願ひします。出来れば、三年後、博士号を取りたいです。そして、この三年間はもっと日本の町を見てみたいです。三年後、自分は一人前になれるように頑張りたいと思っています。よろしく〜

飄々と社会へ出る心情を吐露したのは、「北の一匹狼」三澤M2。

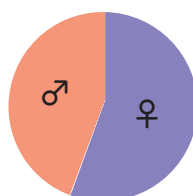
学生生活も残すところ1ヶ月余りとなった。自分としては東京巡遊+写真撮影でもしようかなあとと思っている。あとは3月下旬に友人の結婚式があるので、来年度に向けて幸せをお裾分けしてもらおう。4月からは、よく回転し、外れ落ちる歯車として頑張ろうと考えている。

最後は、多忙だったか、締め切りをしばらく過ぎてから届いた、就職組2人（順に、西原M2、早坂M2）。いずれも、充実の旅行計画と実務への意気込みを語った。

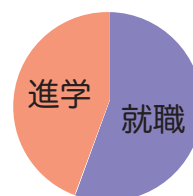
学生最後なので、まちづくりや環境先進国と言われるドイツへの旅行を計画中です（といっても普通の観光旅行です）。4月からは都市計画コンサルタントに勤めます。実務として関わる立場で、たくさんのごことを勉強していきたいと思っています。

現在は学生最後の長期休暇を堪能しています。2月には関西に1週間程出かけ、3月には直島に行く予定です。新年度からは、横浜市役所に勤務します。配属される部署は未定ですが、これまでの学生生活で学んできたことを故郷で、実践できよう努力したいと考えています。

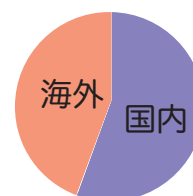
M2・7人のデータ



衝撃の女性率



怒濤の進学率



内外旅人率

text_ishii

東京を駆ける 第1回 ランナーと坂

坂はランナーの天敵の一つであるが、単調なスポーツであるランニングに彩りを与えてくれるのもまた坂である。世界が高速化する以前、マラソンの名コース・名勝負にはかならず坂の影があった。BostonのHeartbreak Hill、BarcelonaのMontjuic、SydneyのAnzac Bridge…そして旧東京国際の四ツ谷の坂もまたそこに名を連ねている。

ご存知の通り、東京の上野から皇居を経て田園調布にいたる武蔵野台地の崖線には、個性的な坂が無限に散らばっており、四ツ谷の坂もその代表である。武蔵野台の坂には著名なものも多く、昌平坂・神楽坂・道玄坂など挙げればキリがないが、東京のランナーにとって重要な坂としては、皇居の三宅坂を挙げたい。東京国際の四ツ谷の坂をプロの壁と称すなら、皇居ランニングの三宅坂はアマの壁と呼べるだろう。西に最高裁・国立劇場、東に内濠と半蔵門を、地下に首都高を従えるこの坂は、日本屈指のダイナミックな構成を持っている。

以上の武蔵野台の坂はおおよそ高低差20m〜30mを持つ。23区の最高地点は世田谷の砦あたりの55mなので、これは結構なものだが、これらの坂は「東京最高」の坂ではない。東京にはもうひとつ、忘れてはならない坂があった。

三宅坂の眺め



レインボーブリッジである。芝浦とお台場を結ぶこのつり橋の両側には、東京湾を一望できるプロムナードが設置されており、昼間は無料で渡ることができる。1.2kmの間に海拔0mから最高60m(現地掲示による)一気に登るこの道は、風も強い上空気も悪く、優雅な眺めに反して東京最大の難所といってもよいだろう。東京の顔であるこの橋が新東京マラソンのコースから外れたのは、交通規制の問題だけではない。

ビル群という衣服に隠された大都市・東京の体躯は坂において初めて浮き出る。その体験に散歩はもちろんよろしい。が、その生の感触をより強く感じる術として、私はジョギングをぜひおすすめしたい。

編集後記

text_bannai

去年の暮れに生まれた甥っ子が、ふた月ぶりに会ったらぐんと重くなってた。3kgだった体重が6kg近くになった、と言うから、1日あたり3kg÷60日=50gの増量。母乳だけで日一日成長してゆく健やかな姿に、「おじさん」は目を細めるばかり。